

欧州戦略への提案におけるILCコスト再評価

				250GeV ILC(2017)		250GeV ILC(2024)	
				TDR-scaled ¹⁾	日本円評価 [億円] ²⁾	ESPPU'26 ³⁾	日本円評価 [億円]
加速器及び測定器建設経費					8,033		13,765
	加速器建設費			n/a	7,028	n/a	12,381
		土木建築+加速器本体		5.26 BILCU	5,830	n/a	10,824
			土木建設（施設工事費）	1.01 BILCU	1,290	196 BJPY	1,958
			設備（電気・機械等）	0.71 BILCU	840	1.38 BILCU	1,791
			加速器本体	3.54 BILCU	3,700	5.40 BILCU	7,075
		研究所人員・据付人員		10.1 k p.yr	1,198	10.1 k p.yr	1,557
	測定器建設経費			n/a	1,005	n/a	1,383
			測定器本体	0.707BILCU	766	n/a	1,072 ⁴⁾
			人員	2.15 k p.yr	239	2.15 k p.yr	311 ⁴⁾
年間運転経費				n/a	392	n/a	633
	保守			0.19 BILCU	186	0.27 BILCU	346
	電力			0.83 TWh ⁵⁾	130	0.73 TWh ⁶⁾	188
	研究所人員			638 FTE	76	638 FTE	99

1) The International Linear Collider Machine Staging Report 2017: <https://arxiv.org/pdf/1711.00568>

2) 国際リニアコライダー（ILC）に関する有識者会議 ILC計画の見直しを受けたこれまでの議論のまとめ:
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/09/20/1409220_1_1.pdf

3) European Strategy Input from IDT: <https://indico.cern.ch/event/1439855/contributions/6461661/>

4) 測定器本体の物件費についてはインフレーションを考慮して1.4倍とした。測定器人員は人件費上昇を考慮して1.3倍とした。全体に占める割合は10%程度で総建設費に与える影響としてはコンテンツジェンシーの範囲に収まると想定。

5) 年間の70%（6130時間）運転（129MW）、30%（2630時間）を保守（12MW）と想定。

6) 2019年に運転時の電力の見直しを行った。年間の70%（6130時間）運転（111MW）、30%（2630時間）を保守（20MW）と想定。